埋蔵文化財ニュースを更新しました！

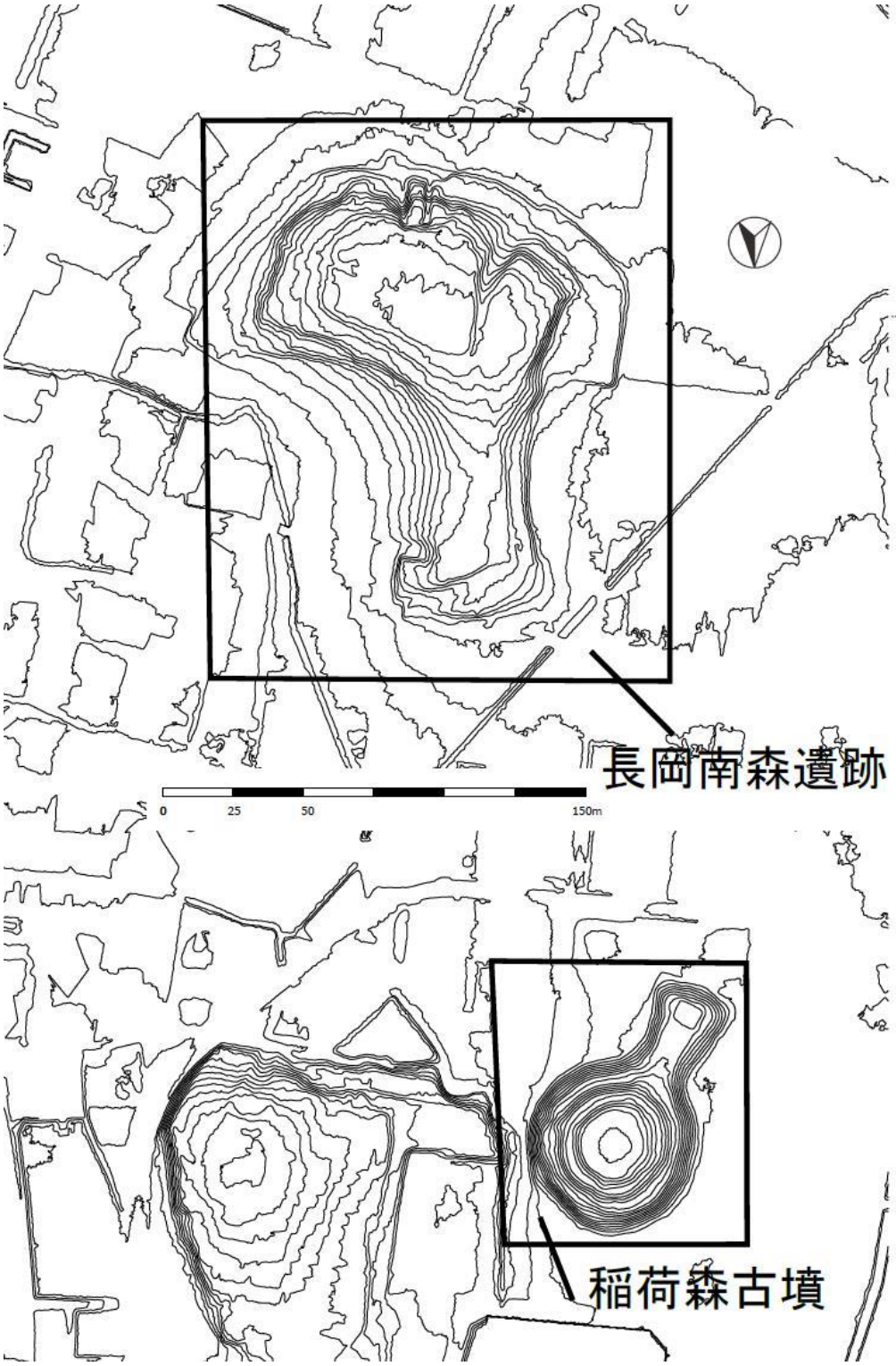
南陽市内で調査が行われた遺跡について、わかりやすく紹介する「埋蔵文化財ニュース」です。
遺跡が身近にあるということ、その遺跡がどのようなものであるかを知っていただき、郷土の歴史に興味を持っていただければ幸いです。
「埋蔵文化財ニュース」は、年数回更新を行い市内の遺跡を紹介します。基礎的な用語についても随時解説しますので、ぜひご一読ください。
（※右側にバックナンバー（PDF）もありますので、あわせてご覧ください。）

今回は、現在調査中の「長岡南森遺跡（ながおかみなみもりいせき）」の最新情報をご紹介します。

◎遺跡の概要と調査経過

「長岡南森遺跡」は、南陽市長岡地区「国指定史跡　稲荷森古墳」から南に約 150ｍの丘陵地にあります。
縄文から中世の遺跡で稲荷森古墳に近く、古墳時代の重要な遺跡と考えらえています。また、中世館跡でもありますが、周辺の開発が進み、遺跡にも影響が及ぶ恐れがあることなどから、平成 30 年度から確認調査を実施しています。令和 4 年度は、丘陵の東南部を中心に 5 月 11 日から開始し、 7 月上旬頃まで調査をする予定です。

測量調査による測量図（図の上の丘陵地が長岡南森遺跡、図の右下が国指定史跡稲荷森古墳）


長岡南森遺跡
0
25
50
150m
稲荷森古墳

長岡南森遺跡全景（西から）

◎現在の調査状況

※トレンチ（調査区）の掘り下げ

※検出された遺構（いこう　※１）の検討

※柵状遺構（さくじょういこう　※２）（中世館跡関連）

※土器の出土状況

※土器（器台きだい※３の一部）

※出土した矢じり

昨年度に引き続き、調査区からは様々な遺物が出土しています。石器や縄文土器、土師器（はじき※４）や須恵器（すえき※５）などです。また、遺跡の性格を検討するために、土層の観察を入念に行い図面や写真などの記録を採って調査を進めています。

古墳時代の祭祀に関係すると考えられる遺物（器台や二重口縁土器（にじゅうこうえんどき※６））が多くの試掘溝から出土しており、特徴的な様相を持った遺跡であることがわかってきました。

◎第４次確認調査（令和３年度）の成果

・丘陵南半部は大きく改変されていること。

※昨年の報道機関向け現地説明会の様子

◎第１次確認調査（平成 30 年度）の成果

・丘陵の形は一部人工的に作られたものであること。

・大型土坑（どこう※７）の検出と遺物の出土。

◎第２次確認調査（令和元年度）の成果

・東から西へくびれる地形や丘陵外周を巡る溝状の遺構を検出。

・古墳時代の遺物の出土。

◎第３次確認調査（令和２年度）の成果

・丘陵北側は何らかの理由で東西対称的に造成された可能性があること。

※昨年以前の調査で出土した土器（壺）

※昨年以前の調査で出土した土器（「二重口縁土器　にじゅうこうえんどき」の一部）

<遺跡までのアクセス>

JR 赤湯駅から車で約 5 分。徒歩約 25 分です。稲荷森古墳の近くに位置しますが、私有地

のため普段は立ち入りできません。（調査期間中も関係者以外立ち入り禁止です。）

用語説明

埋蔵文化財	土地に埋蔵されている文化財のこと。具体的には、貝塚・集落跡・古墳・城跡などの遺構と、土器・石器・木製品・金属製品など遺物を指す。
遺跡	文化財が埋蔵されている土地のこと。埋蔵文化財包蔵地。
古墳	3 世紀後半から約 400 年の間に作られた土を盛り上げた墳丘をもつお墓。
前方後円墳	丸い古墳（円墳 えんぷん）と四角い古墳（方墳 ほうふん）をつなげたような形状をした古墳。
遺構・遺物（いこう・いぶつ）※１	遺構は、過去の人間が残した建物跡や柱穴等の動かすことができないものの総称。遺物は、過去の人間が残した土器や石器等の動かすことができるものの総称。
「柵状遺構」(さくじょういこう）※２	木材を一定間隔で打ち立てた痕跡の遺構。
「器台」（きだい）※３	祭祀に用いられるお供え用の供物を載せる脚のついた皿。
「土師器」（はじき）※４	野焼きで焼かれた茶褐色の土器。弥生時代からの技術を引き継いだもの。煮炊きや食器用として使われたと考えられる。
「須恵器」（すえき）※５	元々は古墳時代に朝鮮半島から伝わった青灰色の硬い土器。高温の窯で焼かれ、貯蔵用や食器として使われたと考えられる。
「二重口縁土器」(にじゅうこうえんどき）※６	古墳時代の前期に多い縁（口縁部）が二重の段になった形態の土器。
「土坑」（どこう）※７	人間が掘ったある程度の深さと大きさの掘り込み。墓や貯蔵庫、祭祀に伴うもの等、様々な性格を持つ。

【更新日　令和４年６月６日】